

広島県内の自治体における地域高齢者の 子育て支援参加の現状と期待

今川 真治

(2021年10月5日受理)

Child-Rearing Support by the Elderly in Local Governments in Hiroshima Prefecture:
Current Status and Expectations

Shinji Imakawa

Abstract: In this study, we investigated child-rearing support by elderly people in local governments in Hiroshima Prefecture. We explored the current situation and the expectations and anxieties of local government officials regarding child-rearing support by elderly people. The purpose of this study was to obtain suggestions for improving the child-rearing support system provided by the local elderly in the community. The subjects were 31 local government offices in Hiroshima prefecture including eight ward offices in Hiroshima city, and 23 Silver Human Resource Centers (SHRCs) in the Prefecture. In each local government and SHRC, questionnaire surveys were conducted for the staff of the departments in charge of child-rearing support (e.g., Family Support Centers), and the dispatchers of each SHRC. Local governments and the SHRCs recognized the gap between the parenting views of the local elderly and the child-rearing generation as a problem. As they expect the elderly to support the child rearing of the younger generation, some local governments and SHRCs hold seminars to provide information to the elderly on the current parenting styles of the younger generation. Regarding the future development of child-rearing support activities by the elderly, local governments and the SHRCs expect that the elderly will play a role in community formation, providing a base for intergenerational exchange, and overseeing child rearing in the community.

Key words: Local elderly, Child-rearing support, Local governments in Hiroshima Prefecture, Silver Human Resource Center, Anxieties and Expectations

キーワード：地域高齢者，子育て支援，広島県内自治体，シルバー人材センター，不安と期待

1. はじめに

わが国では高齢化が急速に進行しており、2019年には高齢化率が28.4%に達し、2065年には38.4%に達すると推計されている（内閣府，2020）。このような状況の中、2018年に高齢社会対策大綱が改定され、六つの分野（就業・所得，健康・福祉，学習・社会参加，生活環境，研究開発・国際社会への貢献等，全ての世代の活躍推進）における具体的施策が定められた（内

閣府，2018）。そこでは、高齢社会においては価値観が多様化する中で、学習活動や社会参加活動を通じた心の豊かさや生きがいの充足の機会が求められるとともに、就業を継続したり日常生活を送ったりする上でも社会の変化に対応して絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要としている。

一方、一人暮らし高齢者の増加を背景に、地域社会において多世代が交流することの意義が再認識されており、ボランティア活動やNPO活動等を通じた社会

参加の機会は、高齢者の生きがい、健康維持、孤立防止につながるともに、福祉に厚みを加えるなど地域社会への貢献も期待される。さらに、高齢者の社会参加は、世代間交流や相互扶助の意識を醸成するものであるとし、高齢期の学びの支援や、高齢者を含む全ての人に学習機会の提供を図り、その成果を適切に評価して地域活動の場での活用を図ること、およびボランティア活動やNPO活動の推進、参画支援を図ることが「学習・社会参加」分野の基本的施策である。

このように、高齢化が急速に進んでいる現代においては、健康寿命の延伸に向けて、高齢者が社会参加によって生きがいを創出する機会を得ることが求められており、高齢者の活躍推進は我が国の政策の一つにもなっている。

平成25年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査（内閣府、2013）によると、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動（健康・スポーツ、趣味等10項目）について、参加したい活動と調査までの一年間に実際に参加した活動を全国の60歳以上の男女に尋ねたところ、いずれかの活動に「活動したい・参加したい」と回答したのは、全体の72.5%であった。参加したい活動に実際に参加している人では、「趣味のサークル・団体」や「健康・スポーツのサークル・団体」が6割以上と、趣味の活動や健康維持を目的とした活動の割合が大きかった。それに対し、高齢者の支援や子育て支援など、社会貢献的活動に参加している人は4割未満であり、参加したい人の半数以上が社会貢献的活動に参加することができていなかった。社会参加をしたい高齢者は多く、高齢者自身の健康や趣味のための活動に参加できる機会は多いのに対し、社会の一員として活躍できる機会は限られているのが現状である。

このような背景の中で、政府が推進する子育て支援事業に、地域子ども・子育て支援事業がある。これは、市区町村が実施主体となり、市町村子ども・子育て支援事業計画に従って、地域子育て支援拠点事業やファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）など、子どもと子育て家庭等を対象とした事業を実施するものである。本稿では、それらの支援事業の詳細を述べることはしないが、近年、子育て支援分野での人材確保が課題となっている。保育園等の一時預かり事業を担う人材の不足だけでなく、ファミリー・サポート・センター事業のような地域の子育て支援における人手不足も深刻である。このような中で、子育て支援分野と高齢者の社会参加を結びつけることが求められるようになった。

高齢者による子育て支援は、高齢者が生きがいを感

じられる機会の一つであるとされている。中村・浜・後藤（2007）は、孫がいる高齢者の方が孫がいない高齢者よりも主観的幸福感が高く、「一緒にいて楽しい」や「孫と一緒にいると元気が出る」などの孫に対する情緒的な感情を、主観的幸福感を高める要因としている。また、内田、藤原、西垣、香川、作田他（2012）は、高齢者の育児支援活動は、高齢者の心身の健康に効果があることを報告している。以上のように、高齢者による子育て支援は高齢者自身に良い影響を及ぼすが、それだけではなく、高齢者の育児参加は、育児経験者の知恵や経験を活かした支援ができることであり、それによって子育て世代の育児ストレスや育児不安が解消されることも期待されている。

内田ら（2012）は、高齢者の子育て支援活動への参加が、育児中の母親の育児ストレスを抑制する効果があることを示唆した。高齢者による子育て支援参加について、田淵、中原（2006）は、高齢者の子育て支援参加意欲と子育て世代のニーズを対照させており、両者ともに高齢者の子育て支援参加に対して肯定的であることを示した。また「高齢者の文化の伝達」や「子育てにおける知恵の伝達」といった、高齢者の経験による知恵の伝達側面について子育て世代のニーズが高く、高齢者の参加意欲も高かったが、一方で「子育てに必要なモノの支援」や「経済的支援」といった物質的支援の側面では、子育て世代のニーズの高さに比べて、祖父母世代の参加意欲が低いことを明らかにした。

高齢者による地域の子どもの子育て支援の一つに、シルバー人材センターが提供している育児サービスがある。シルバー人材センターの育児サービスは、シルバー人材センターに登録している60歳以上の育児経験豊富な会員が、仕事や家事で忙しい保護者に代わって、乳幼児や小学校低学年児童の世話、園児の送迎などをするサービスで、広島県の子育てポータルサイト「イクちゃんネット」にも妊娠・出産期から受けられる支援の一つとして掲載されている。これらの取り組みに見るように、自治体なども高齢者の子育て参加による高齢者と子育て世代の双方に良い効果を与えることを認識しており、共働き家庭の増加や地域のつながりの希薄化を背景として高齢者による支援ニーズが高まっていることがわかる。

本研究では、広島県内の自治体における地域高齢者の子育て支援の現状を調査し、高齢者の子育て支援に対する期待や不安を調査することにより、地域高齢者の子育て支援活動に関わる問題点を明らかにし、地域高齢者の子育て支援体制の改善についての示唆を得ることを目的とする。

2. 方法

2-1 広島県内の自治体の子育て支援体制に関する質問紙調査

(1) 調査対象

本研究の調査対象は、広島県内の14市役所、9町役場、および広島市内の8区役所の計31自治体であった。質問紙の回収数は14部（回収率45.2%）で、有効回答数は14部であった。回答者は、それぞれの自治体で、ファミリー・サポート・センター事業及び子育て支援を担当する部署の職員であった。

(2) 調査手続き

2020年10月29日に調査依頼文と質問紙および返信用封筒を各自治体に郵送し、2020年11月12日までに、回答済みの質問紙を返信用封筒で返送してもらった。

(3) 調査項目

本調査における調査項目は次のような内容であった。

- ①自治体の子育て支援に関する基本情報
- ②自治体が定める子育てのための条例や宣言
- ③ファミリー・サポート・センター事業の実施状況
- ④自治体独自の子育て支援に関する取り組みの実態
- ⑤子育て支援提供者と利用者を増加させる取り組みとそのための工夫
- ⑥子育て支援における問題や課題
- ⑦地域高齢者の子育て支援参加の実態と期待

2-2 広島県内のシルバー人材センターの育児支援に関する質問紙調査

(1) 調査対象

本研究の調査対象は、広島県内23カ所のシルバー人材センター（自治体の高齢者能力活用協会を含む）であり、各シルバー人材センターの人材派遣担当者に回答を依頼した。回収数は13部（回収率54.2%）で、有効回答数は12部であった。

(2) 調査手続き

2020年11月27日に調査依頼文と質問紙および返信用封筒を各シルバー人材センターに郵送し、2020年12月1日までに、回答済みの質問紙を返信用封筒で返送してもらった。

(3) 調査項目

本調査における調査項目は次のような内容であった。

- ①シルバー人材センターの基本情報
- ②センターが行っている育児サービス
- ③地域高齢者の子育て支援参加の実態と期待

3. 結果および考察

本稿では、地域高齢者の子育て支援の実態と期待に

焦点を当てることから、自治体調査とシルバー人材センター調査から、主として高齢者関連の情報を抽出して、その結果を報告する。

3-1 広島県内の各自治体の子育て支援の実態

広島市については、南区からのみ回答が得られたため、南区のデータを広島市のものとして扱う。

(1) ファミリー・サポート・センター事業実施状況

ファミリー・サポート・センター事業の実施状況と会員数を表1に、ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の男女比、60歳以上の提供会員の割合、提供会員依頼会員比率を表2に示す。

表1 ファミリー・サポート・センター事業実施状況

市町名	実施の有無	提供会員			
		総数	男性	女性	うち60歳以上 男性 女性
安芸高田市	有	51	3	48	
大崎上島町	無				
海田町	有	67	1	66	0 28
北広島町	有	28	0	28	0 26
熊野町	有	82	7	75	2 15
呉市	有	295	9	286	6 137
庄原市	有	227			
世羅町	有	66	9	57	7 28
廿日市市	有	348			
東広島市	有	192			計73
広島市(南区)	有				
福山市	有	160	8	152	5 52
府中市	有	34	2	32	2 21
三次市	有	176	4	172	2 54

表2 ファミリー・サポート・センター事業会員

市町名	提供会員男女比	60歳以上提供会員割合	提供会員依頼会員比率
安芸高田市	1 : 16		55 : 67
大崎上島町			
海田町	1 : 66	41.8%	11 : 14
北広島町	0 : 28	92.9%	14 : 11
熊野町	7 : 75	20.7%	15 : 11
呉市	9 : 286	48.5%	413 : 1556
庄原市			261 : 344
世羅町	3 : 19	53.0%	80 : 89
廿日市市			66 : 161
東広島市		38.0%	5 : 12
広島市(南区)			
福山市	1 : 19	35.6%	232 : 777
府中市	1 : 16	67.6%	43 : 255
三次市	1 : 43	31.8%	257 : 710

提供会員男女別人数については、9市町から回答が得られたが、全ての市で女性提供会員が男性提供会員の人数を上回っていた（東広島市では男女の具体的分布は不明）。北広島町の男性会員は0人であった。男女の人数に最も差があったのは呉市で、男性が9人に対し、女性が286人であった。60歳以上の提供会員の割合に関して回答が得られた9市町のうち、提供会員全体に占める60歳以上会員の割合が50%未満の市町が海田町や熊野町を含む6市町、50%以上の市町が3市町（北広島町、世羅町、府中市）であった。60歳以上

会員の割合が最も低かったのは、熊野町の20.7%、最も高かったのは北広島町の92.9%であった。

(2) 地域高齢者の子育て支援活動への参加の実態と課題

1) 各自治体が考える課題

高齢者が子育て支援活動に参加するにあたって、自治体で現在起こっている問題とこれから生じると想定される課題について、北広島町と呉市を除く12市町から回答が得られ、大きく九つに分類された。各自治体の回答を分類して表3に示す。

表3 高齢者の子育て支援活動参加における課題とその解決に向けた取り組み

課題	該当市町数	市町名	解決のための取り組み	該当市町数	市町名
価値観、子育て観の相違	4	安芸高田市 福山市 廿日市市 府中市	話し合い、内容の理解を得る 講習会の開催	1	安芸高田市 福山市
高齢化(体力、病気など)	3	海田町 熊野町	子育て支援センターの利用	1	熊野町
免許返納による活動困難	1	熊野町	自転車貸し出し事業	1	熊野町
小さな子どもを見る不安	2	大崎上島町 府中市	協議継続中	1	大崎上島町
活動に対する温度差	3	安芸高田市 府中市 三次市			
特定の人への負担の集中	1	東広島市	地域の人みんなで助け合う取り組みを進めている	1	東広島市
働いているため参加困難 ※60~70代	1	庄原市	オンライン子育て支援	1	庄原市
参加方法がわからない	1	東広島市			
特になし	2	広島市南区 (庄原市)※SOH			

安芸高田市、廿日市市、福山市、府中市の4市からは、高齢者と現子育て世代の間の価値観、子育て観の相違が、課題として挙げられた。このうち安芸高田市からは、子育て支援はボランティアであるが有償であることから、世代の違う依頼者や、保育所や小学校側との思いの相違や、過度な期待、要望に支援提供者がどこまで対応するかが難しいという回答が得られた。また福山市は、高齢者と現在の子育て世代の子育ての仕方が異なる背景として、高齢者が子育てをしていた頃に比べ、複雑な状況を抱える子育て家庭が増加したことや、子育てに対する価値観が多様化したことを指摘した。

複数の自治体から、支援者が高齢になるにつれ、体力の低下や発病、怪我の心配があることが挙げられ、熊野町では、高齢のため依頼が受けられなくなっている現状が、世羅町からも、高齢者の活動自体の難しさが指摘された。さらに熊野町からは、免許返納により、高齢者の支援活動が困難になる可能性があることが課題として挙げられた。大崎上島町では、高齢者に子育て支援への協力を要請したが、小さな子どもを見るのは不安だと回答があったとのことだった。また、東広島市からは、子育て支援に参加する方法が高齢者に伝わっていないことが課題として挙げられていた。

特に課題はないという回答が得られた広島市(南区)

からは、「子育て支援参加においては、核家族が多い折、高齢者の方の知恵などをもらったり、優しく関わってくださったりと、良いことと思われる。体力的に流行りものをもらうリスクは考えられるが、ボランティアの参加で、できる時にできることをしていただいて、無理のない参加をしていただいている」との回答があった。庄原市からは、60-70代の方は現在も働かれていますので、子育て支援に大きく関わることは難しいという問題が、80代以上の方に限っては「ケガ等に気をつければ特に問題なく、どんどん高齢者の方にも子育て支援に携わっていただきたい」という回答が得られた。

2) 課題の解決に向けた取り組み

価値観、子育て観の相違に対する取り組みとして、「利用内容を理解してもらい、どういう支援が必要でどこまでなら(対応が)できるという話し合いを持ち、お互いが納得し、理解して、利用または支援できるように努めている(安芸高田市)」や、「今と昔の子育ての違い(福山市)」をテーマにした講習会の実施があった。

高齢化および免許返納に関する課題に対して、熊野町では、子育て支援センターの部屋を活用した預かりや自転車等の貸し出し事業、サテライト型子育て支援事業の実施、およびタブレット等を活用したオンラインによる支援事業の実施などが挙げられた。「60-70代の方は働いているため、大きく子育て支援に関わることが難しい」ことを課題として挙げた庄原市でも、オンラインによる子育て支援が取り入れられていた。

3) 高齢者の子育て支援における不安要素

高齢者が子育て支援活動に参加する際に不安要素となることについて、得られた各自治体の回答を六つに分類して表4に示す。

表4 高齢者が子育て支援活動に参加する際の不安要素

不安要素	該当市町数	市町名
事故(車の事故を含む)	5	安芸高田市 熊野町 庄原市 東広島市 三次市
免許返納による活動困難	2	安芸高田市 熊野町
子どもの安全管理	5	海田町 呉市 東広島市 福山市 三次市
高齢化(体力、病気など)	8	大崎上島町 海田町 熊野町 呉市 庄原市 東広島市 広島市南区 三次市
価値観、子育て観の相違	2	東広島市 福山市
役立ち感	1	福山市

最も多くの自治体が挙げた不安要素は、やはり「高齢化」であった。高齢支援者の体力、判断力の低下や、病気を原因とする高齢者自身の怪我や事故、高齢者

に子どもを事故から守れるかなどが不安要素として挙げられた。また、それらを包括する形で、「子どもの安全管理」という回答をした自治体も多く見られた。また、高齢による免許の返納に関して、高齢の支援者が車の事故に対して不安を感じる一方で、免許返納によりニーズの高い送迎支援の依頼が困難になるという、自治体側の不安も挙げられていた（安芸高田市）。

東広島市と福山市は、世代間における価値観や子育て観の相違を不安要素として挙げ、関わり方の難しさを感じるのではないかと回答があった。さらに福山市は、「自分にも支援ができるのだろうか、役に立てるのだろうか」などといった、高齢者が支援への参加を躊躇する気持ちを挙げていた。

4) 高齢者の担う役割に対する各自治体の考え方

「子育て支援分野において、地域高齢者が担う役割は大きいと思いますか」という問いに対し、回答が得られた14市町のうち、「とてもそう思う」と回答した自治体が2市（21%）、「そう思う」と回答した自治体が12市町（79%）であり、「そう思わない」、「全くそう思わない」と回答した自治体はなかった。（図1）。

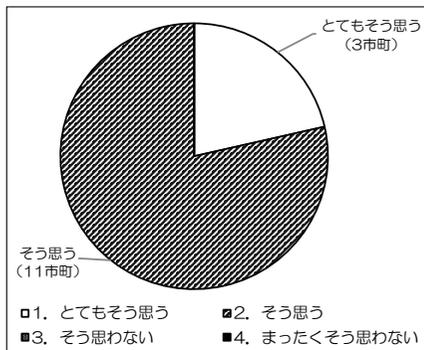


図1 子育て支援分野において、地域高齢者が担う役割は大きいと思うか

「とてもそう思う」と回答したのは、庄原市と福山市で、その理由について庄原市は、「高齢者にしかわからないこと、伝えられないことがたくさんあると思われる」、福山市は、「子育てに携わる人は人の役に立ちたい、人との出会いに喜びを感じる、自分自身が元気になるという人が多いと思う。そういったパワーが地域に溢れることで、地域で共に子育てをしていくという意識や温かい眼差し（見守り）が増え、安全安心な子育て環境につながると思う」とした。

高齢化について、府中市は、「地域高齢者の人口が増加している中で、地域で子育てをする機運になればありがたいが、（地域高齢者の）子育て支援との接点

が少ないように思う」と回答していた。

またその他として、呉市と広島市（南区）が、地域高齢者の子育て支援参加は、子育て親子と地域高齢者の双方にとって良いことという意味で、「相乗効果」という言葉を用いていた。子育て親子にとっての効果として、高齢者が子育ての心強い支援者になることや、子どもが地域高齢者にしてもらったことを人にしてあげられる思いやりや優しさが生まれることが挙げられていた。他方、地域高齢者にとっての効果は、一人暮らしや孤立する高齢者の活躍の場になることとして、地域での繋がりが広がることが挙げられていた。

5) 子育て分野における地域高齢者に対する期待

各市町の子育て分野における地域高齢者に対する期待について表5に示す。

表5 子育て支援分野において、地域高齢者に期待すること

地域高齢者に期待すること	該当市町数	市町名
知恵・遊びの伝承	4	安芸高田市 海田町 世羅町 広島市南区
子育て家庭(子ども、親子)の見守り	7	安芸高田市 海田町 世羅町 廿日市市 東広島市 福山市 府中市
子育て世代の頼れる存在になる	6	大崎上島町 熊野町 世羅町 広島市南区 福山市 府中市
各世代の居場所作り	2	熊野町 呉市
高齢者のためになること	3	庄原市 広島市南区 三次市

子育て分野における地域高齢者に対する期待について、北広島町を除く13市町から回答が得られた。得られた回答は、知恵・遊びの伝承、子育て家庭の見守り、子育て世代の頼れる存在になること、各世代の居場所作り、高齢者自身のためになることの五つに分類された。

最も多くの自治体が挙げたのは、子育て家庭の見守りで、7市町が挙げていた。

子育て世代の頼れる存在になることについては、子育て世帯が困っていることに対する支援をしてもらいたいという回答（大崎上島町）や、子育て支援サービスでは補えない部分に支援者として関わってもらいたいという回答（熊野町）があった。福山市の回答には、「若い世代は地域社会の繋がりに煩わしさを感じる人も多いと思うが、その反面、“温かな声かけや見守りなどの支援があることで安心できる”、“近くに頼れる親がいないので、育児のノウハウを活かしてサポートしてもらえると助かる”という声も聞く。高齢者には、若い世代が安心して地域で子育てしていくことができるように、顔と顔でつながれるような活動等を通して頼れる存在になってもらえたらいいのではないかと思います」

う」という、実際の子育て世代の声に関する記述があった。

各世代の居場所作りに関しては、核家族化が進んでおり、子育て世代が孤立しやすいため、地域とのつながりの橋渡しの役を担ってほしい(熊野町)や、昔ながらの遊びの伝承などを通して、子どもたちや子育て親の居場所作りをしてほしい(呉市)などがあった。

また、「高齢者のためになること」には、高齢者に子育て支援に少しでも介入してもらい、元気を出してもらえることの期待(庄原市)や、元気で地域社会に出かけてほしい思い(広島市(南区))が含まれている。また、三次市からは、「地域の子育て活動に参加するにはハードルが高いと思われる。日々何気なく子どもの通学時間等に触れ合える時間を意識して、地域の子どもの小さなコミュニティを広げていってほしい」という回答が得られた。

6) 子育て支援分野における地域高齢者の活躍推進に向けた制度の充実

地域高齢者の子育て支援分野における活躍を推進していく場合、どのような制度を充実させることが必要かを尋ねたところ、14市町の回答は大きく八つに分類された。各自治体の回答を分類して表6に示す。

表6 子育て支援分野において地域高齢者の活躍を推進していくために充実が必要な制度

制度の充実	該当市町数	市町名
支援者となる地域高齢者への情報提供	4	海田町 熊野町 廿日市市 東広島市
怪我・事故に対する補償	3	庄原市 福山市 三次市
高齢者と子育て家庭を繋ぐ、交流機会の設定	4	安芸高田市 呉市 福山市 府中市
個別対応のための相談窓口の設置	2	熊野町 東広島市
活動内容の工夫	3	庄原市 広島市南区 三次市
活動団体支援	1	呉市
ファミリー・サポート・センター事業の制度の充実	1	大崎上島町
検討中	1	北広島町

支援者となる地域高齢者への情報提供に関して、子育て支援の参考となる講習会やステップアップ講習など、支援者が安全に活動できるような知識やスキル、および現在の子育てに関する新しい情報を身につけるための情報の提供を行う必要があると回答した自治体が多かった。

怪我・事故に対する補償については、庄原市が、保険でのサポートの充実を具体的に挙げていた。

活動内容の工夫として、広島市(南区)が、地域高齢者が、子育てに無理なく積極的に参加できる機会を持てるような取り組みを挙げ、三次市は地域のコミュニティの風通しを良くし、高齢者にも楽しんで活動してもらえるような内容の工夫をする必要があると回答

した。また庄原市の回答には、高齢者以外の支援に関わる方の活発な活動により、子育て支援活動を盛んにすることの必要性の記述が見られた。

7) 地域高齢者の子育て支援活動の今後の展開

地域高齢者の子育て支援活動の今後の展開について、北広島町と三次市を除く12市町から回答が得られた。それらの回答を六つに分類して表7に示す。

表7 地域高齢者の子育て支援活動の今後の展開

地域高齢者の子育て支援の今後の展開	該当市町数	市町名
地域づくりへと展開されてほしい	5	安芸高田市 呉市 東広島市 福山市 三次市
コミュニティづくりの場となしてほしい	4	海田市 広島市南区 福山市 府中市
世代間交流の場	2	海田市 世羅町
子育て世帯を支える役割	3	熊野町 世羅町 福山市
地域高齢者の活躍の場になる	1	廿日市市
その他	2	大崎上島町 庄原市

地域づくりへ発展してほしいという回答が5市町で見られ、安心、安全な地域、住みよいまちづくりに展開すること(安芸高田市)や、高齢者に限らず、地域のすべての人が、子どもと保護者を見守り、支え合う地域づくりを目指していること(東広島市)などが挙げられた。

コミュニティづくりの場となしてほしいという回答には、地域高齢者の子どもとのつながりの場としての子育て支援や、高齢者を含む地域住民と子どもとのふれあいの場としての子育て支援という展開を期待するものが多く見られた。

さらに福山市は、地域住民が気軽に子育て家庭と集えるような場を設けたり、イベントを実施したりすることによるコミュニティづくりを通して、地域の活動がさらに活発に展開されることが望ましいと回答した。

その他について、大崎上島町は、地域高齢者の子育て支援を、「発展させるべきもの、発展してもらいたいもの」と考えていた。また、庄原市からは、「地域高齢者以外の子育て支援に携わる方のやる気やエネルギーにより、良い方向へ行くか悪い方向へいくかが決まってくると思う」と、地域高齢者以外の支援者のあり方についての回答が得られた。

3-2 広島県内のシルバー人材センターにおける地域高齢者の子育て支援の実態と課題

(1) 広島県内のシルバー人材センターの基本情報

各市町におけるシルバー人材センターの会員(シルバー会員)の年齢に関する情報を表8に示す。

表8 各センターにおけるシルバー会員の年齢情報

市町名	年齢制限		会員の年齢（最年少～最年長）			
	下限	上限	男性		女性	
安芸太田町	60	～	61	～ 86	59	～ 87
尾道市	60	～	60	～ 96	60	～ 88
海田町	60	～	62	～ 88	62	～ 92
北広島町	おおむね60	～	58	～ 88	60	～ 90
呉市	おおむね60	～	60	～ 88	59	～ 86
庄原市	おおむね60	～	57	～ 93	59	～ 90
廿日市市	60	～	60	～ 90	61	～ 87
東広島市	60	～	60	～ 95	60	～ 89
広島市	60	～	60	～ 94	60	～ 93
府中市	60	～	60	～ 87	61	～ 91
三原市	60	～	60	～ 89	60	～ 92
三次市	60	～	60	～ 103	60	～ 87

会員の年齢制限について、下限は、北広島町、呉市、庄原市の三つの市町が概ね60歳、その他の9市町が60歳と回答した。安芸太田町は、下限は原則60歳であるが、登録する年に60歳になる者を含むと回答した。年齢の上限は、回答を得た12市町全てで設定されていない。

現在登録している会員の男女別の最高年齢と最低年齢を尋ねたところ、男性の最低年齢は、会員登録の下限を概ね60歳と回答した3市町のうち2市町が60歳より低く、北広島町が58歳、庄原市が57歳であった。男性の最高年齢は、安芸太田町の86歳が最も低く、三次市の103歳が最も高かった。一方、女性の最低年齢は、安芸太田町、呉市、庄原市の3市町が59歳、海田町が62歳であり、その他の8市町では60歳であった。最高年齢は、呉市の86歳が最も低く、海田町の92歳が最も高かった。

(2) 育児サービスの実施状況と課題

1) 各センターが提供する育児支援の内容

育児サービスを提供している七つのセンターにおける、育児サービスに関する支援の提供の可否を表9に示す。

表9 センターが提供できる支援内容

支援内容	提供できるとしたセンター数	提供できないとしたセンター数
自動車を利用した送迎	0	7
公共交通機関を利用した送迎	5	2
徒歩での送迎	5	2
夜間の子守	2	5
日をまたぐ子守	2	5
子どもの入浴介助	5	2
食事作り	5	2
子どもと外食をする	3	4
その他		1

自動車を利用した送迎など八つの支援について、提供できるかどうかを尋ねたところ、自動車を利用した送迎はすべてのセンターが提供できないと回答した。

多くのセンターが提供できると回答したサービスは、公共交通機関を利用した送迎、徒歩での送迎、子ども入浴介助、食事作りであった。

2) 育児サービスの提供における課題

各センターが直面している育児サービスにおける課題や問題、およびそれらの解決に向けた取り組みを表10に示す。

表10 各センターが直面する課題と解決に向けた取り組み

育児サービスの提供における課題	該当市町数	市町名	課題解決に向けた取り組み	市町名
サービスに対応できる会員の不足	6	安芸太田町 尾道市 海田町 東広島市 広島市 三次市	研修の実施 会員の拡大	広島市 三次市
公共サービスとの競合の回避	1	呉市	イベント型育児に限定	呉市
食事作りのメニューのレパートリー	1	廿日市市	レシピの考案	廿日市市
会員と家族とのコミュニケーション	1	東広島市	事例の紹介や交流会を作る	東広島市
世代間ギャップ	1	広島市	研修の実施	広島市
男性会員の関わりがない	1	海田町		
責任が重い	1	安芸太田町		
子どもの命を預かるリスク、安全面	1	府中市		
会員と子どもとの体力差	1	海田町		

シルバー人材センターが育児サービスを提供する際に直面する課題は、サービスに対応できる会員の不足であると回答した市町が6市町あった。その中で、東広島市は、「お母さんの代わりとして対応できる」会員の不足を、広島市は、資格を有する会員の不足を指摘した。その他、育児サービスへの男性会員の関わりがないことや、子どもに対する業務は責任が重いこと、子どもの命を預かるリスクや安全面に対する問題、子どもと高齢者の体力の差が大きいことなどが問題として挙げられた。

また、子育てする側が公共サービスとの競合を回避する傾向がある問題や、高齢世代と現在の子育て世代との、子育てにおける世代間ギャップの解消を課題とした市町も見られた。食事づくりの支援が可能な市町では、食事づくりの回数を重ねていくと、料理のレパートリーがなくなり、会員に途中で依頼を受けることを断られてしまうという問題も挙げられた。加えて、依頼者の家に向いての支援においては、会員と家族とのコミュニケーションが課題となっていた。

以上の問題や課題の解決に向けた取り組みについて尋ねたところ、サービスに対応できる会員の不足、公共サービスとの競合の回避、食事づくりのレパートリーの不足、会員と家族とのコミュニケーション、世代間ギャップの解消の五つが挙げられた。

サービスに対応できる会員、特に、資格を有する会員の不足を解消するための取り組みとして、広島市では、保育中の安全確保等について学ぶためのベビーシッター研修を実施していた。この研修は、広島市シ

ルバー人材センターが行なっている福祉家事援助初級研修会と呼ばれる研修である。この研修を受講しなければ、会員は、福祉家事援助サービス（家事援助、介護、子守等）の仕事を受けることができないことになっている。

(3) 地域高齢者の子育て支援参加に対する考え

1) 地域高齢者の担う役割の大きさに対する考え方

「子育て支援分野において、地域のシニア世代が担う役割は大きいと思いますか」という問いに対し、北広島町と三次市を除く10市町のシルバー人材センターから回答が得られ、「とてもそう思う」が2市町、「そう思う」が5市、「そう思わない」が3市町であった(図2)。

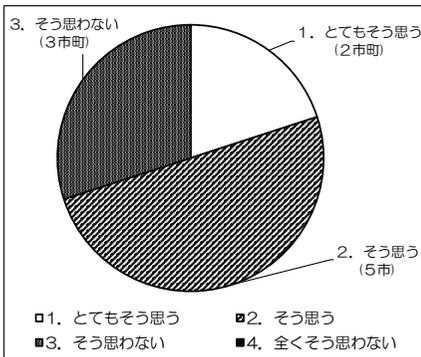


図2 子育て支援分野において、地域高齢者が担う役割は大きいと思うか

「とてもそう思う」と回答したのは海田町と東広島市であり、その理由として、海田町は、祖父母が子育てに関われない家庭が増え、子どもが高齢者と関わる機会が減っているためであるとした。東広島市も、祖父母が県外に住んでいる家庭が多く、実際に祖父母と会えるのが年に数回しかないため、地域高齢者が子育てをサポートできるのであれば、核家族の子育て家庭も安心できることを理由としていた。

「そう思う」と回答したのは、尾道市、呉市、庄原市、広島市、三原市の5市であり、その理由は、その背景が核家族化および共働き世帯の増加であるものとそうでないものに分けられた。核家族化および共働き世帯の増加を背景とする理由には、地域高齢者が子育てに参加することにより、共働き世帯のサポートができることや、核家族化や共働き世帯が増加している中で、子育ては社会全体で担っていくことが求められているためであることが挙げられた。核家族化および共働き世帯の増加以外を背景とする理由には、地域で子育てをすることで、児童虐待を防止できる可能性や、地域高

齢者と子どもたちの双方に良い点があることが挙げられた。

「そう思わない」と回答したのは、安芸太田町、廿日市市、府中市の3市町であった。その理由として、廿日市市と府中市は、「現代の保護者の考えは多種多様であり、支援に対して感謝される方もいれば、うるさい、おせっかいと捉える方もおり、難しい」や、「今は、他人の子どもにあれこれ（助言）しにくい世の中であるため、注意もできず、声もかけられない」など、子育て観の変化や、地域における人間関係のあり方の変化によるものを挙げていた。また安芸太田町は、祖父母が同居していたり、近居している家庭が多いという、地域性による理由を挙げていた。

2) 高齢者が子育て支援に参加する際の不安要素

地域高齢者が子育て支援活動に参加する際に不安要素となることについて、9市町から得られた回答を四つに分類して表11に示す。

表11 地域高齢者の子育て支援活動への参加における不安要素

不安要素	該当市町数	市町名
事故・ケガへの対応、補償	4	安芸太田町 尾道市 海田町 庄原市
トラブルの発生	2	東広島市 呉市
プライバシーの保護	1	安芸太田町
子育て観、考えの相違	3	海田町 廿日市市 三原市

事故や怪我、トラブルの発生に関して、事故が起こったり、高齢者が怪我をしたり、子どもに怪我をさせたりした時の対応や、それらの補償に対する不安があると4市町が回答した。海田町は、高齢者の体力や記憶力等の低下により、突発的な事故が起こる危険性や、思い違いをしてしまうことに対する不安があると回答した。トラブルが起こった時の対応に対する不安があると回答した市町もあり、東広島市は、依頼者の家で育児支援をした際に、家の物が紛失したことがあったという具体的なトラブルを挙げていた。また呉市は、高齢者自身の体調に変化が起こった時の対処について不安があると回答した。

プライバシーの保護に関する不安には、地域柄、子育て家庭と支援をする地域高齢者がよく知った者同士のために、個人情報を守られにくいという地域性を背景としたものがあった（安芸太田町）。

子育て世代と高齢者との子育て観や考えの相違に関して、廿日市市が「子育てする保護者の年齢層が幅広いので、同じ行動、支援をするときでも躊躇する気持ちが発生する」と回答した。三原市も同様に、地域高齢者が子育て家庭と関わる際に遠慮してしまうことを

不安要素に挙げていた。

3) 地域高齢者の子育て支援参加への期待

子育て支援分野において地域高齢者に期待されていることを尋ねたところ、安芸太田町は、「当事者でないのわからない」と回答したが、残りの8市町から得られた回答は五つに分類された(表12)。

表12 子育て支援における地域高齢者への期待

期待されていること	該当市町数	市町名
知識や経験を活かしたサポート	3	尾道市 呉市 三原市
親世代の情緒的サポート	1	庄原市
世代間交流による学び	3	海田町 東広島市 広島市
見守る支援	1	庄原市
地域高齢者の生活の活性化	2	廿日市市 東広島市
当事者でないのわからない	1	安芸太田町

地域高齢者への期待については、高齢者の知識や経験を活かしたサポートや、世代間交流による学びを挙げたセンターが多かった。世代間交流による学びについて、海田町は「人との関わりが希薄な時代に育つ子どもに対して、シニア世代の人情、温かさを次世代に伝えること」が、広島市は「世代間交流による子どもの成長」が期待されていると回答した。また、東広島市は「若い世代はシニアへ今の状況を伝えることでお互いの参考になると思う」と、高齢者と子ども双方の学びの機会となることが期待できると回答した。

親世代の情緒的サポートについて、庄原市は、サポートの手段として、子どもの登下校時の声かけを具体例に挙げていた。また庄原市は、直接的な支援でなくても、遠くから見守るような支援をしてもらえることが地域高齢者に期待されていると考えていた。

地域高齢者の生活の活性化について、廿日市市は、子どもとふれあうことにより、高齢者の心にもいろいろなことが芽生えて元気をもらい、日常生活が少しでも活性化することが期待されると回答した。

シルバー人材センターは、地域における自らの役割を、地域貢献や、高齢者の社会参加・生きがいづくりの場の提供、高齢者の孤立防止への対策と考えていた。さらに、センターでの活動と同様に、高齢者に子育て支援活動への参加を提供・促進することも、高齢者の生きがいや健康増進、自己有用感の創出、孤立防止になると考えていた。

4. まとめ

自治体やシルバー人材センターは、高齢者と子育て

世代の子育て観のギャップを問題として認識した上で、その解消のために、現代の子育てに関する情報が得られる講習会を行なったりしていた。しかしそれだけでは、子育て世代や高齢者の不安を解消するには不十分であり、高齢者の子育て世代への理解を深めるだけではなく、子育て世代が高齢者に歩み寄ることも必要であろう。両者の子育て観のギャップを埋めるためには、自治体等が主導して世代間交流の機会を醸成し、高齢者と子育て世代がコミュニケーションをとることで、両者が互いを理解し合うことが必要である。

また自治体とシルバー人材センターはともに、高齢者も子育て世代もともに、子どもや高齢者の怪我や事故に対する不安が大きいことを把握しており、子どもや高齢者の怪我や事故に対する補償の必要性を認識していた。高齢者が安心して支援活動できるように、怪我や事故の防止に向けた高齢者向けの講習会を実施したり、高齢者が単独で子どもを預かる環境での支援ではなく、複数の大人の目がある場所での支援を充実させ、怪我や事故のリスクを軽減させることも必要であると考えられる。

自治体やシルバー人材センターは、地域高齢者による子育て支援活動の今後の展開について、地域高齢者の子育て支援参加が、地域づくり、コミュニティづくりの場や、世代間交流の場への発展することを願っている。さらに自治体は、子育て支援分野において高齢者に、コミュニティ形成や世代間交流の拠点作りおよび地域の見守り役としての役割を担うことを期待していた。世代間交流による支援および見守り支援は、「高齢者の価値観や子育て観が直接影響しない分野において、高齢者の経験や知識、趣味や特技を活かして気軽に参加できる」支援として、高齢者の参加意欲が高く、子育て世代の利用ニーズも高いと考えられる。このことから、世代間交流による支援や見守り支援は、高齢者の参加意義の大きい分野であるということができ、この分野において高齢者の活躍が一層推進されることが期待できる。

子育て支援分野は高齢者一人一人がもつ経験や知識を活かした社会参加ができる場として大きな可能性を孕んでいるが、子育て支援活動は、子育て家庭が安心して子育てができる環境をつくるための取り組みであることを忘れてはならない。「高齢者が活躍できる」子育て支援だけではなく、「子育て世代が利用したい」子育て支援に、高齢者がどのように関わっていけるかを考えていくことが必要であろう。

本研究は、令和2年度広島大学教育学部卒業生北朱希の卒業研究の収集データを元に作成したものである。

【引用文献】

- 内閣府. (2013). 平成25年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査. (<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/zentai/index.html>). 2021年1月3日閲覧
- 内閣府. (2018). 高齢社会対策大綱 (平成三十年2月16日閣議決定). (<https://www8.cao.go.jp/kourei/measure/taikou/h29/hon-index.html>). 2021年1月3日閲覧
- 内閣府. (2020). 令和2年度版高齢社会白書. (https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/zenbun/02pdf_index.html). 2021年1月3日閲覧
- 中村辰哉・浜翔太郎・後藤正幸. (2007). 孫との関係に着目した高齢者の主観的 幸福感に関する研究. 武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, 8, 75-78
- 田渕恵・中原純. (2006). 祖父母世代による子育て支援参加の可能性の検討. 生老病死の行動科学, 11, 53-62.
- 内田勇人・藤原佳典・西垣利男・香川雅春・作田はるみ・下村尚美・濱口郁枝・東根裕子・木宮高代・矢野真理. (2012). 高齢者による育児支援活動が祖父母世代の心身の健康と母親の育児ストレスに及ぼす影響. 日本世代間交流学雑誌, 2, 33-39.